

しろう



第 65 号

特集:チュウヒサミット

K. Kitayama

2010年9月 日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

特集 チュウヒサミット 2010 報告

近藤義孝

24 都道府県より 211 名参加

7 月 18 日名古屋国際会議場 234 会議室にて、チュウヒサミット 2010 が開催されました。



名古屋鳥類調査会森井豊久さん

名古屋鳥類調査会代表森井豊久さんの開会の挨拶か

ら始まりました。講演順に要旨内容の抜粋を受知県支部武居栄さん撮影の写真と共に紹介します。

チュウヒとサミットの紹介

(財)日本野鳥の会自然保護室 浦達也

・木曾岬干拓地のチュウヒが危ない

……チュウヒはその湿地生態系の頂点に位置し、またヨシ原で営巣する唯一の猛禽類です。チュウヒは、環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B 類に指定される

希少な鳥で

す。……

……木曾岬

干拓地 (440ha) は、干拓のあとに農業政策が変更さ



(財)日本野鳥の会浦達也さん

れたことにより、

濃尾平野の豊かな湿地生態系が回復して来ている場所です。日本野鳥の会三重と同愛知県支部はこの貴重な環境を保全するための方策を提言してきました。しかし現状は、57ha の「チュウヒ保全区」を残して、平成 28 年までにわんぱく原っぱや野外体験広場などを整備する計画が立てられています。……

・チュウヒ保護の輪を広げたい

……日本野鳥の会三重、同愛知県支部、名古屋鳥類調査会は、「チュウヒサミット 2006」を 2006 年 6 月に名古屋市内で開催しました。……この時、国内で知られるチュウヒの繁殖数が 50 つがい程度であることが初めて確認されました。

……2008 年 6 月には再び名古屋で「チ

ュウヒサミット 2008」が開催され、チュウヒの越冬生態や各地の繁殖状況、国内で直面している脅威などについて発表がありました。

・チュウヒサミット 2010

英国では、チュウヒの近縁種であるヨーロッパチュウヒが生息していたのですが、1800 年代に絶滅してしまいました。……

このような保護活動を通して、1971 年には 1 つがいしかいなかったヨーロッパチュウヒはその後、1982 年には 23 つがい、2005 年には 350 つがいまで増加しました。……

・大潟村から

……秋田県の大潟村です。ここのチュウヒについては 1 年間に及ぶ取材の成果が、NHK の自然番組「ダーウィンが来た」で紹介され、多くの視聴者に感銘を与えました。幸い、大潟村では村長さん自らがチュウヒの存在を村の魅力の一つととらえ、チュウヒとの共生を施策に掲げておられます。……

チュウヒのくらし—映像&トーク—

つばめプロ・映像作家 平野伸明

・最初に NHK「ダーウィンが来た」で放映されたチュウヒの映像を見ました。その後の講演要旨です……



……1964 年、およそ 46

年前に日本で 2 番目に大きい湖八郎潟を干拓して出来た村が大潟村である。農地は整然と区画され、一見単調のようだが、実は多様な環境を持っている。田んぼのまわりにはヨシ原がいたるところにある。さらにそのまわりには防風林がある。そして村全体を取り囲むように幅広の水路があり、良好な湿地環境を形成している。この広大で多様な環境こそが、多くの生きものを育み、水系生態系の頂点に立つチュウヒのくらしを支えているのである。

……大潟村で確認したチュウヒの産卵数は 4~7 卵で、そのすべてを親は抱くが、早く産み、抱いた順番から孵化するので、雛の成長には大きな差が出る。チュウヒの孵化時期初期の頃に雛の成長に大きく差が出るのはこのためである。その

ため、後から生まれた雛は食べ物が不足がちで、7卵を産んでも雛はせいぜい4羽が育つのが精一杯で、ふつうは2~3羽である。それでも親鳥は卵を守るため、第一卵から卵を抱かなくてはならず、結局、何羽かを育てられればよしとするチュウヒの生き残り戦略なのだろう。

待望の雛が生まれると、オス親は狩りに忙しくなる。大潟村の多くは田んぼで、チュウヒは田んぼのわきのあぜ道や道路、水路わきの草むらやヨシ原や麦畑などで獲物を狩る。チュウヒの獲物の多くはネズミや小鳥やカエル、まれに小さなヘビやトカゲなどである。……

チュウヒは日本のタカの中で、地面に巣をつくる唯一のタカである。他の樹上や崖などに巣をつくるタカとは比べものにならないほどリスクなのはやむを得ない。大潟村では以前、ネズミ駆除のためにイタチを人為的に放した歴史があり、村の中にはイタチが多い。また最近、豊かな自然環境のためキツネやタヌキ、アナグマなどが増え、チュウヒの雛が食べられている。……

田畑が育む野鳥の楽園—秋田県大潟村—

大潟村長 高橋浩人

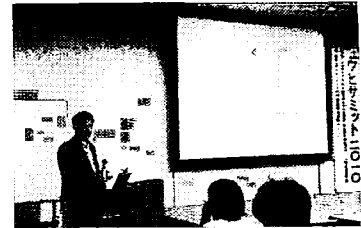
……八郎潟干拓は1957年に始まり1977年に完了、八郎潟の湖底は1万7,203haの新生の大地に生まれ変わり、「大潟村」と命名されました。大潟村は現在、人口3,309人、農地面積11,755ha（内作付面積8,904ha）、農家戸数524戸となっております。

2001年環境創造型農業宣言をし、2007年からは「農地水環境保全向上対策」事業を活用して環境創造型農業を推進しています。大潟村は干拓による肥沃な大地と日本海からの良風で、農作物栽培において他地域よりも肥料・農薬の投入量が、化学肥料で全国の約50%、化学農薬で約39%と著しく少なくなっています。……

2010年1月14日NHK「ダーウィンが来た」で大潟村のチュウヒが放送されました。……その後、村の自然の撮影を加え、NHKのプレミアム8ワイルドライフで「田畑がはぐくむ野鳥の楽園」が3月15日放送されました。この番組は、大潟村の農業と自然の繋がりが大変良く表現され、多くの村民が改めて村の自然に関心を示す契

機となりました。

県が所有するチュウヒの営巣地となっているヨシ原の未利用地（35ha）を牧草地に開発する計画が進行していま



大潟村長 高橋浩人さん

したが、県との交渉でチュウヒの営巣地は保全し代替え地に草地を開発することになりました。

また、村では国指定鳥獣保護区と隣接する乾燥が進んできたヨシ原の村有地（20ha）に水を引き湿地化と水質浄化の実証とともに、チュウヒの営巣地化も試みることにしています。更に、村では自然観察指導員を養成し、村民への啓蒙と適正な観察による自然との共生を図って行きます。

今後、大潟村では「湿地性里山環境」の豊かな自然を育みながら情報として発信し、交流人口の増加や大潟村で生産される農産物・加工品のイメージアップと販路拡大につながることを目指し、村の振興を図ります。

英国のチュウヒ—増減の歴史と保護策—

英国鳥類保護協会シニアマネージャー

Adam Rowlands

分類学者の中にはチュウヒをヨーロッパチュウヒの亜種とする人もいます。しかし、一方では別種とする学者もいます。両種の成鳥



は羽色では明確に区別できます。しかし、幼鳥や亜成鳥ではよく似ています。この違いにかかわらず、両種は同じような大きさであり、同じ生息環境を好みます。両種は同じニッチ（生態的地位）を占めているといえるでしょうし、保護のために必要な要件もおおよそ類似していると考えられます。それゆえ、ヨーロッパチュウヒ繁殖集団を拡大させた保護活動と研究から得られた知識は、日本におけるチュウヒ集団の回復させる活動にとって有意義であると考えられます。

ヨーロッパチュウヒは捕食者が進入しにくい、水深のある氾濫原のヨシの生えるヨシ原を必要とします。その水深は一定であり、巣が水没しな

いことが必要です。この鳥は水位の安定した淡水が汽水域を好み、10ヘクタール以上の広いヨシ原に生息します。しかし、既に繁殖が確立されている場合や、付近に背の高い農作物のある場合には狭いヨシ原でも巣を作ります。水位を維持し、ヨシ原に灌木や高木が進入することを防ぐ積極的な管理が、ヨーロッパチュウヒ集団の維持と拡大に必要となります。また、巣の周辺で十分な餌が得られることも重要です。多くの繁殖雄は巣からかなり離れた場所で餌動物を獲り、雌やヒナに与えます。

イギリスにおけるヨシ原や湿地は1800年代、および1900年代に農業や経済成長のための干拓でかなり減少しました。この干拓により、ヨーロッパチュウヒの利用しうる生息環境は大きく減少しました。これに直接の迫害も加わり、この種は1800年代に絶滅しました。しかし、それ以上の生息環境の減少は保護活動、特にRSPB等、またEUでの“種と生息環境保護委員会”による保護区の設置により、食い止められました。保護区は1980年代と1990年代に作られ、それらは重要な湿地環境として登録され、以後は確実に保護されています。さらに1990年代および2000年以降、イギリスのヨシ原はRSPBとその他のグループにより再生、創出され、ヨーロッパチュウヒの生息環境を供給することができました。

ヨーロッパチュウヒは1911年にイギリスにおいて再び繁殖を始めました。しかし、1944年までは毎年1~5つがい繁殖するだけに留まり、まれな繁殖鳥でした。1958年には15つがい記録され繁殖個体が増えましたが、RSPBが設けたミンズミア自然保護区では1971年には1つがいにまで減少してしまいました。1950年代後半から1960年代にかけての急速な減少は、生息環境の減少と有機塩素系殺虫剤の影響と考えられました。この有機塩素系殺虫剤は卵の殻を薄くします。その後、繁殖集団は1982年には23つがい、2005年には350つがいまで増加しました。この増加はイギリス以外からの補充によるものと考えられます。オランダでは繁殖つがい数は1960年代の100~150つがいから、1992年には1400つがいまで急速に増加しています。これは干拓により繁殖に適する環境が創出されたためと考えられます。

1980年代に施行された、野鳥とその巣に関しての法律による保護は確実に迫害を少なくし、営巣の成功を増やし、個体数を増加させました。1990年代から、ヨーロッパチュウヒはイギリスの平地において、秋まき農作物の圃場で営巣をするようになりました。現在の繁殖集団はこの農地での繁殖なしには維持できないでしょう。農地で繁殖する鳥については繁殖が成功するように保護をする必要があります。保護管理員は農家と密接に協力し、巣が保護されヒナが巣立ちできるようにしています。

以上のように、1971年以降のヨーロッパチュウヒ個体群の回復は次の点によるでしょう。

- ・営巣できるような適切な自然環境の準備
- ・農地での繁殖への適応とそれを保護する保護関係者の努力
- ・オランダで増加した個体群からの個体の補充
- ・法律による鳥と生息環境の保護

(訳：平井正志)



表紙の言葉

北川和則（多気町）

以前はふつうにいた鳥、最近めつたに会えなくなりました。
白と黒のチェックが何とも言えない美しさを出しています。
再会したい鳥の一つ。
またの再会を楽しみに。

目 次

チュウヒサミット報告	1
表紙の言葉	3
目次	5
ブッポウソウバスツアー	6
バスツアーに参加して	7
コアジサシ受難	8
野鳥記録	9
しろちどり原稿募集	9
事務局だより	10
探鳥会報告	12
編集後記	15

木曾岬干拓地でのチュウヒの繁殖

日本野鳥の会三重 近藤義孝

・木曾岬干拓地とは

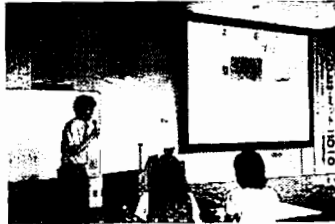
木曾岬干拓地は木曾川河口左岸のアサリの豊富な干潟を干陸した干拓地であり、443haにおよぶ。土地は水面下45cm～50cmであり、ポンプによる排水で維持されている。1966年に農地利用を目的として干拓がはじまり、1973年に干陸した。その後社会情勢の変化により農地としての利用価値が下がり、そのまま放棄された。1994年に県境が確定し、2001年には両県が農水省から干拓地を購入した。両県は伊勢湾岸自動車道以南を含む北側の173.7haを改変し、運動公園とする利用計画を策定し、2006年には自動車道以北に土盛りし、運動公園にする工事が始まった。土盛りは土不足により、遅れ気味である。

・野鳥保護団体の活動

1980年代に干拓地におけるチュウヒの繁殖が確認された。またヨシゴイの繁殖もみられた。1993年には三重野鳥の会と愛知県野鳥保護連絡協議会が連名で農林水産大臣あてに同干拓地のサンクチュアリ化を申し入れ、また、同年から干拓地に隣接する鍋田干拓地で探鳥会が始まり、鳥類のデータを取り始めた。

・木曾三川河口周辺地域でのチュウヒ繁殖

最近でも名古屋市内で繁殖活動が知られているが、いずれも2～3年の一過的なもの



で、継続した繁殖地とはなっていない。また、愛知県東部、三河湾に面した田原の埋立地でもチュウヒの繁殖が知られている。しかし、これも造成が進めば消滅するであろう。なお、伊勢湾西岸の三重県側ではこの干拓地以南にチュウヒの繁殖は記録されていない。

・木曾岬干拓地におけるチュウヒの繁殖

2002年以降、毎年2ないし3つがい繁殖に入り、2002年を除いて毎年少なくとも1羽のヒナが巣立っている。2002年以降、2009年までで巣立ったヒナは合計18羽である。2005年以降の繁殖の成功は2巣どまりであり、3巣が確認された2009年にも成功したのは2巣だけであった。工事で自動車道北側が採餌に利用ができなくなったことが影響している可能性がある。2巣だけ営巣した2005年から2007年にも5羽以上の個体が確認され、繁殖に入らない、繁殖予備の個体がいることが明らかになった。これは大陸で繁殖し、日本で越冬する個体とは別のものであろう。名古屋周辺では前述のように恒常的ではないが、いくつかの営巣地が知られている。木曾岬干拓地がそれらの繁殖個体の供給源となっている可能性がある。

・保護区について

三重県は干拓地南端の55haに池とヨシ原を造成し、ここで3つがいの繁殖が可能であるとし、干拓地利用(運動公園化=173.7ha)の補償措置とした。採餌活動はこの場所で活発であるが、この場所は我々が調査を開始した年から営巣が頻繁に行われており、2003年、2004年、2005年および2008年に巣立ちが確認された。ただし、保全区造成工事が本格化した2009年は繁殖が確認されず、2010年も繁殖は確認されていない。

木曾岬干拓地は継続的に複数つがい繁殖できる重要な繁殖地であり、ほぼ毎年、周辺の東海地区に個体を供給している可能性が高い。この状態を維持するためには少なくとも現在の草地=自動車道以南全域をチュウヒ繁殖保護地域として保存する必要がある。

・ねぐらとしての干拓地

チュウヒ、ハイイロチュウヒ、コチョウゲンボウは地上でねぐらをとることが知られている。

繁殖期のチュウヒにおける農地の利用

—青森県仏沼の事例—

北里大学獣医畜産学部 境瑞紀

……2006年から、
仏沼で行っているチュウヒの繁殖調査では、
営巣地の周辺農地において高い頻度で採餌行動が観察され、農地が



チュウヒにとって重要な採餌環境になっていることが示唆された。そこで、2009年はチュウヒの好む採餌環境を明らかにし、保全対策を検討することを目的として、採餌環境としてのヨシ原と農地の利用率の違いを調べた。また、ペリット解析も併せて行い、主要な食物資源の推定を行った。

結果は、抱卵期ではヨシ原の利用率が高く、育雛期以降では周辺農地での利用率が高かった。

飛行ルートの分布も、抱卵期ではヨシ優占域内の池周囲に集中したが、育雛期から周囲農地への移行がみられた。また農地の中でも、特に農道に沿って採餌する様子が目立って観察された。

全試行地点数に占める割合は、ヨシ原が31%、農地が69%であり、農地ではヨシ原の約2.2倍の頻度で、ハンティングが行なわれているという結果が得られた。

調査期間中に回収したチュウヒのペリット21個の解析の結果、30個体分の獲物が認められ、その内訳は齧歯目が24個体(80%)、鳥類が6個体(20%)であった。

採餌飛行時間の計測結果から、ヨシ原と農地の利用率を比較すると、繁殖ステージの進行に伴い、農地の利用率が高くなることがわかり、仏沼での繁殖期チュウヒにとって農地が重要な採餌環境であることが示唆された。このことは、農地におけるハンティング試行地点数が、ヨシ原よりも多いという結果からも裏付けられる。また、ペリット解析結果から、主要な食物資源として齧歯目を利用していることが推察された。

チュウヒの行動圏と渡り経路

—北海道勇払原野の事例—

(財)自然環境研究センター 中山文仁

……北海道苫小牧の勇払原野で繁殖する

チュウヒに、地球上どこにいても位置が分かる衛星電波発信機を装着し、行動を追跡しました。調査は、北海道のウトナイ湖周辺の湿地で行いました。チュウヒの雄の成鳥を捕獲し、Argos衛星発信機を装着し、行動を追跡しました。……

その結果、繁殖期における行動範囲は、MCP法を用いると5,884ha、固定カーネル法を用いると1,041haとなりました。越冬期における行動範囲は、MCP法を用いると36,806ha、固定カーネル法を用いると4,050haでした。繁殖期は、営巣地～餌場と考えられる場所を往復するように行動し、特定の場所を数か所選び、好んで利用していました。……渡りは9月23日に開始し、ウトナイ湖から一気に海を横断し、5時間後には青森県の大間崎に到達していました。その後、八甲田山系を移動し、宮城県伊豆沼を經由した後、太平洋沿岸地域を通り9月30日に霞ヶ浦周辺の水田地帯に到達しました。総移動距離は直線距離にして750km、要した時間は概ね一週間でした。

調査の結果から、チュウヒの個体群保護のためには、生息環境の面的な保全よりも、局所的な選好環境を把握し、その保全を図ることが重要であると考えられました。……

ポスター発表とチュウヒ写真展会場

サミットの行われた234教室以外にポスター発表の会場も用意された。休憩時間や昼休みに発表が行われた。



内容は下記の通りです。

- ・平野敏明氏 (バードリサーチ)
「渡良瀬遊水池におけるチュウヒ類2種の越冬個体数の長期モニタリング」
- ・納屋仁氏 (日本野鳥の会大阪)
「堺第7-3のこれまでの調査結果」
- ・多田英行氏 (日本野鳥の会岡山)
「仏沼でのこれまでの調査結果」
- ・先崎哲究氏
「チュウヒの盗賊行為について」

また、同じ会場でチュウヒの写真展も行われた。

ブッポウソウバスツアー

H22. 7. 3(土)～4(日)

企画部 西村四郎

7月3日(土)～4日(日)と、支部会員を対象に岡山県吉備中央町でブッポウソウ観察バスツアーを行いました。

当日、集合時は曇りでしたが、西に向かうにつれだんだん小雨が降りはじめました。お昼過ぎに現地へ着き、日本野鳥の会岡山から3名来ていただき、いろいろ現地を案内して頂きました。

- ・ブッポウソウは5月の下旬にきて、お盆にはいなくなる。
- ・現在巣箱をかけて保護活動をしている。ここでは約100巣利用で、全国営巣数の1/3にあたる。
- ・「利用している巣箱の廻りでは、だいたいいるポイントは決まっている。
- ・スギよりヒノキが好き。

等バスの中から説明していただきました。利用中の巣箱にビデオを設置してあるところがあり、リアルタイムで巣箱のヒナの様子が観察できました。

バスの中からの観察が主でしたが、雨が小止みになった時などバスを降りて観察しました。15時過ぎまで観察し、その後は姫路市内で宿泊しました。

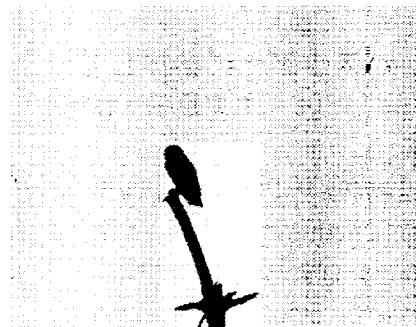
雨が小止みになると外へ出て観察



巣箱
大きさは決まっている



リアルタイムで巣箱の中がみられる



ブッポウソウ。遠くて暗い

2日目は神戸市立森林公園と大阪南港野鳥園を観察しました。

・神戸市立森林植物園 10:15～11:45

休日だったのでかなりの人出でしたが、良い環境でした。

【観察できた鳥】

ホトトギス、キビタキ、エナガ、コゲラ、ホオジロ、ウグイス、シジュウカラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ヤマガラ

・大阪南港野鳥園 13:10～14:20

オフシーズンでしたが、シギチやカモのシーズンになれば期待できそうでした。

【観察できた鳥】

アオサギ、カワウ、カルガモ、セッカ、ハクセキレイ、ミサゴ、シロチドリ、キジバト、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、カワラヒワ、ツバメ、ハシボソガラス、ダイサギ



宿泊場所で記念撮影 (H22. 7. 4)

ブッポウソウ、バスツアーに参加して

中尾良子 (鈴鹿市)

ブッポウソウの観察会のお誘いをI様からいただき、これを機に日本野鳥の会三重県支部に入会させていただいた。I様には亀山市探鳥会で何時もお世話になっている。こんな事から7/3~7/4、岡山県吉備中央町「ブッポウソウ、バスツアー」に初めて参加した。入会して直ぐブッポウソウを観にゆくとは何と運のよい事と先輩達の弁に凄く嬉しく興奮した。ブッポウソウの鳴き声はNHK ラジオから遠い昔、聞いた記憶があるがラジオから流れたのはフクロウ科の「コノハズク」の声とか。I様のブッポウソウの弁に、一時頭が混乱した。ブッポウソウはブッポウソウと鳴かない。猿の声かと思うほど大きな声で「ゲッゲッ」と鳴くと熱ぼく話してくれた。こんな話が聞けるのも鳥の楽しみでブッポウソウを早く観たいと心が躍った。

ブッポウソウは吉備高原地帯に標高150m~400mの山間地に居ると貰った資料から教えられた。そこは水田が広がる里山。点在する農家の静かな暮らしがあった。辺りの山々は今、正に万緑の季節。梅雨が大自然の緑をより豊に育み心があるられる思いがした。この大自然に身を置き一体になれるのもバードウォッチングの醍醐味と私は常に感謝し楽しんでいる。この自然界の中でブッ

ポウソウが子育て真最中と岡山県野鳥観察会のボランティアの方々の説明に耳を傾け車中から鳥探しをした。雨が今、猛る如く降っている。1990年位から木の電柱からコンクリート電柱に替わってから鳥が激減。これは大変と鳥の繁殖大作戦の話に感銘した。木の巣穴から巣箱へ。農道に立つNTTの8mのコンクリート電柱に架けた巣箱は140個程。地域、企業、ボランティアの方々の管理努力の結果、その後ブッポウソウは確実に増えてきたそうで、嬉しくほっとした。鳥はこの時季、この地に来れば必ず観る事が出来ると思った。親鳥が昆虫などの餌を運んでいるから。

巣箱に目を向け走ることを暫し。「あっ、あそこにブッポウソウ飛んでいますよ」

雨で煙った雑木林の辺りを飛んでいる。いる！いる！カラス？いや違う！羽の白い斑を肉眼でハッキリ観た。車中に歓声が上がり喜ぶ顔、顔。来た甲斐があるというもの。双眼鏡で電線に止まる姿もしっかりと観た。望遠鏡でも観せてもらった。しっかりした太い赤い嘴、赤い足。大感動。東南アジアからの渡りとお聞きした。日本に700羽位いるそうだ。鳥のエネルギーを感じた。一つ残念なことは鳴き声が聞けなかった事で、又機会があれば来たい。鳥に別れを告げて明日は神戸市立森林植物園と大阪南港野鳥園へと続く。

岡山への往復800kmの旅は大自然の吉備、日本最大面積を持つ森林植物園の充実した環境の中の植物と野鳥を学び、その後、山から海へと移行。大阪南港野鳥園の道中は景色が一変。大阪湾埋め立て地上に大都市が開け吃驚する事の連続で日本の技術の高さにも感動。旅は感動の連続でこの2日間、何と充実した日を過ごした事か。誠に有り難く楽しいバスツアーであった。これもI様と出会いがあり、三重県野鳥の会へと繋がり感謝だ。今後共、よろしくお願ひします。ツアーでは本当に皆様いろいろお世話になりありがとうございました。役員さんありがとうございました。吉備の鳥ボランティアの方々に深く感謝します。楽しいブッポウソウツアーでした。

コアジサシ受難

今井光昌（津市）

「コアジサシ受難の日」として 2010.07.12 は記憶から消え去ることはないでしょう。



沖洲にコアジサシの集団繁殖が見られ、レジャー人への注意喚起に「この沖洲はコアジサシが営巣しています。卵を踏まないように気をつけて」という意味の看板を鳥友数人と立てたのが2日前の10日。その時、カウントしたコアジサシの巣は36巣、卵の数は63個、他にシロチドリの巣が1巣、卵は3個でした。

この沖洲での繁殖が成功するか否かはレジャー人が遊ぶ洲であることと大潮の満潮時に水没するのではないかということでした。

営巣場所をここに選んだのはコアジサシ自身が大丈夫だろうと判断した？、洲の高さが少し高くなっている？のかと。抱卵期間が19-21日だとすれば2度の大潮の満潮時を乗り越えなくてはならない。



看板を立てた10日の日に孵化直後の雛を1羽確認しています、ということは前回の大潮時は水

没しなかったということになる。が、半月前の大潮での満潮時の潮位と今回の大潮での満潮時の潮位は違う、その差は10センチあまりのものだろうけど。この差が命取りになったのかも。

満月の大潮より新月の大潮のときの方が潮位が高くなり潮の動きも早い。上流で降った雨の量、沖から吹いた南東の風も潮位に影響したのかも。

コアジサシ63個の卵。シロチドリ3個の卵が、水没してしまった事実。集団繁殖が確認されてからカウントしたコアジサシの数は多い日では200+を超えていた。

早朝の満潮時に水没した卵に見切りを付けたのか、夕刻の現場では1羽のコアジサシもいなかった。新たな繁殖場を求めて移動していったのかも、そうあってほしい。

（平井正志代表よりのコメント）

コアジサシは本来大きな河川の中州など人や野生動物が侵入できない裸地で集団繁殖する鳥、もう30年近く前、富士川のとてつもなく広い中州で繁殖しているのを見に行ったことがある。石ころだらけの中州を歩いて到達するのにどれくらいかかったであろうか。しかし、近年河川敷を運動場にしたり、親水護岸などでこのような場所が失われてしまった。また、ダムで水量を調節するため、大水がながれず、中州は草だらけになったり、木が生えている。雲出川でコアジサシが見つけたのは大潮満潮時に水没する狭い砂洲であった。この悲劇は一見自然の成り行きのように見えるが、人の所作のもたらした結果といえるのではないだろうか。



コアジサシ受難

平井正志 (津市)

「コアジサシ受難の日」として 2010.07.12 は記憶から消え去ることはないでしょう。



沖洲にコアジサシの集団繁殖が見られ、レジャー人への注意喚起に「この沖洲はコアジサシが営巣しています。卵を踏まないように気をつけて」という意味の看板を鳥友数人と立てたのが2日前の10日。その時、カウントしたコアジサシの巣は36巣、卵の数は63個、他にシロチドリの巣が1巣、卵は3個でした。

この沖洲での繁殖が成功するか否かはレジャー人が遊ぶ洲であることと大潮の満潮時に水没するのではないかとということでした。

営巣場所をここに選んだのはコアジサシ自身が大丈夫だろうと判断した？、洲の高さが少し高くなっている？のかと。抱卵期間が19-21日だとすれば2度の大潮の満潮時を乗り越えなくてはならない。



看板を立てた10日の日に孵化直後の雛を1羽

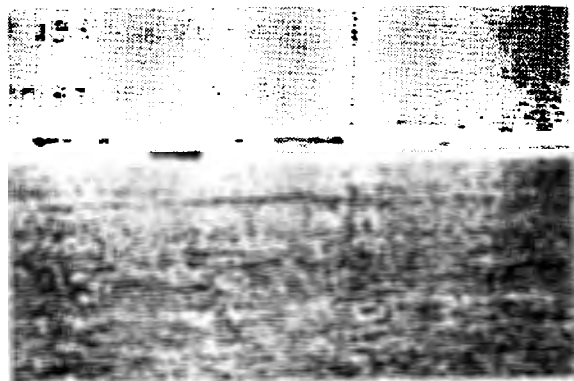
確認しています、ということは前回の大潮時は水没しなかったということになる。が、半月前の大潮での満潮時の潮位と今回の大潮での満潮時での潮位は違う、その差は10センチあまりのものだろうけど。この差が命取りになったのかも。

満月の大潮より新月の大潮のときの方が潮位が高くなり潮の動きも早い。上流で降った雨の量、沖から吹いた南東の風も潮位に影響したのかも。

コアジサシ63個の卵。シロチドリ3個の卵が、水没してしまった事実。集団繁殖が確認されてからカウントしたコアジサシの数は多い日では200+を超えていた。

早朝の満潮時に水没した卵に見切りを付けたのか、夕刻の現場では1羽のコアジサシもいなかった。新たな繁殖場を求めて移動していったのかも、そうあってほしい。

コアジサシは本来大きな河川の中州など人や野生動物が侵入できない裸地で集団繁殖する鳥、もう30年近く前、富士川のとてつもなく広い中州で繁殖しているのを見に行ったことがある。石ころだらけの中州を歩いて到達するのにどれくらいかかったであろうか。しかし、近年河川敷を運動場にしたり、親水護岸などでこのような場所が失われてしまった。また、ダムで水量を調節するため、大水がながれず、中州は草だらけになったり、木が生えている。雲出川でコアジサシが見つけたのは大潮満潮時に水没する狭い砂洲であった。この悲劇は一見自然の成り行きのように見えるが、人の所作のもたらした結果といえるのではないだろうか。



野鳥記録(2010年6月～9月に報告のあったもの)

※表中の「報告者」は「初認者」ではない場合もあります。

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
フルマカモメ	1	2010 5 30	鳥羽-伊良湖航路	岡林 猛	○	1
サンショウクイ	3	2010 6 12	三重郡菟野町尾高高原	伊藤 敏和	○	2
コヨシキリ	1	2010 6 5	松阪市愛宕川河口	西村 四郎	×	3
キビタキ	1	2010 7 11	伊勢市佐八町	小坂 里香	×	4
サシバ	1	2010 7 11	伊勢市佐八町	小坂 里香	×	5
オシドリ	1	2010 8 1	南牟婁郡御浜町志原	中井 節二	○	
ソウシチョウ	2	2010 7 22	大紀町大内山 南亦森林公園	山本 洋	○	6
ミユビシギ	564	2010 8 22	津市町屋浦	平井 正志	×	7
サンショウクイ	15	2010 8 31	三重郡菟野町千草	矢田 栄史	×	8
標識キョウジョシギ	1	2010 8 24	松阪市松名瀬海岸	田中 洋子	○	9
白変ウミネコ	1	2010 9 7	津市町屋浦海岸	田中 洋子	○	10

- 備考1 担当註:会員外報告(紹介会員・岡 八智子)、伊勢湾フェリーからの観察。
- 備考2 確認したのは3羽ですが、もっと居たかも知れません。親鳥が虫を捕ってきて、幼鳥に与えている様でした。幼鳥は「ヒリヒリ」と鳴きながら枝に止まって餌をねだっており、親鳥が虫を銜えて別の木に止まると、そこに集まって貰っていました。写真は多分幼鳥と思いますが私には判別できません。
- 備考3 去年に続き今年もきてくれました。去年より少し上流で観察しました。オオヨシキリに追われていました。
- 備考4 ヒタキ科の雌の特徴があり、オオドリかキビタキの雌と判断。5月、6月と雄のさえずりを確認しており、全体の雰囲気からも警戒音の声からもキビタキでいいと思う。5月6月に同地で雄のさえずりを確認している。樹上でしきりに警戒音を発していたところから、近くに巣があるか、雛がいると思われた。
- 備考5 声のみの確認。過去に付近での繁殖記録があるので、繁殖している可能性が大きいと思う。
- 備考6 種名不明で報告、担当(小坂)が写真から同定。
- 備考7 これまでの最大数。前日21日も494羽を観察している。
- 備考8 おとし同日にも県民の森でサンショウクイを数羽観察している。この時期に渡りで通過しているものと思われる。
- 備考9 右足のすねにオレンジフラッグ(W6の印字有り)、ふしよにブルーフラッグ。左足のすねに金属リング。2008年8月9日松阪市松名瀬海岸で発見、山階鳥研に報告済みのものと同一個体でした。この個体は2007年3月24日オーストラリア、タスマニア、キング島、マヌカで放鳥された成鳥個体と山階鳥研から回答がありました。つまり今年4歳以上の個体です。
- 備考10 ウミネコたちと一緒にいました。白変個体なので識別は難しいですが1、嘴がピンクで先が黒い、先端がやや赤いような気がします。2、脚がピンク。3、虹彩がやや暗色。なので第一回夏羽かなと思います。

※「備考」は、特に注意のない限り、報告者のコメントから抜粋したものです。

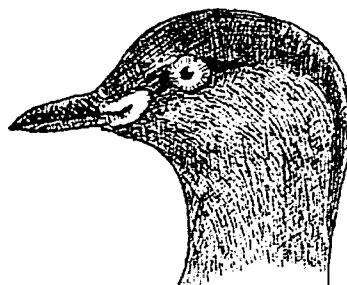
観察記録募集! 支部のHP http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/index.htm から簡単に投稿できます。支部報に掲載できない記録もデータとして保存しています。ぜひご協力ください。

事務局だより

支部活動の記録（2010年6月～8月）

- 6/7 「平成22年度三重保全区 伊勢湾二期工区閉鎖性海域再生魚場環境保全創造事業」
（五主海岸周辺）について現地説明会に参加
- 6/8 青山高原ウインドファーム風力発電増設事業に係る環境影響評価準備書についての
意見書を提出
- 6/9 松阪市三渡川特定猟具使用禁止区域（再指定）他について意見書を提出（全2通）
- 6/12～13 中部ブロック会議（長野県）に出席（理事ら3名）
- 6/12 会報「しろちどり第64号」発行
- 6/13 風力発電学習会に参加協力
- 6/17 伊賀市阿保桐ヶ丘特定猟具使用禁止区域（猟銃）について意見書を提出
- 6/19 伊賀市上野特定猟具使用禁止区域（猟銃）について意見書を提出
- 6/22 伊賀市川上ダム建設予定地特定猟具使用禁止区域（猟銃）について意見書を提出
- 6/29 志摩市磯部町神路ダム特定猟具使用禁止区域（猟銃）他について意見書を提出（全2通）
- 7/3～4 県外探鳥旅行（企画部）
- 7/3 津市白山町二本木鳥獣保護区他について意見書を提出（全2通）
- 8/7 「県営防災ダム事業環境調査委託」の成果物とりまとめ作業
- 8/13 明和町下御糸第2特定猟具使用禁止区域他について意見書を提出（全2通）
- 8/13 県に赴き「県営防災ダム事業環境調査委託」の調査結果報告
- 8/20 「藤原鉦山及びその周辺次期原料山開発事業」について太平洋セメント藤原工場を訪れ面談（代
表ら2名）
- 今後の予定
- 9/8 県による「県営防災ダム事業環境調査委託」の完成検査（立会2名）
- 9/18 「青山高原ウインドファーム風力発電増設事業」に係る意見聴取会
- 9/26 会報「しろちどり第65号」発行
- 11/7 第2回理事会
- 11/27～28 第18回野鳥密猟問題シンポジウム in 四国

※8月開催予定の理事会は、都合により中止しました。



探鳥会報告（10年5月～8月）

● 朝明源流探鳥会

2010年5月8日（土）9：00～15：00

菰野町 朝明溪谷

辻 秀之 川口久美 参加者9名（会員6名）
ノスリ、ジュウイチ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カケス、ハシブトガラス 計19種

4月の低温のためか、虫が少なく鳥も例年と比べて少なめでしたが、オオルリが美しいさえずりと姿で楽しませてくれました。

晴天のもと、気持ちのよい山歩きを楽しみました。

● 五十鈴川上流探鳥会

2010年5月9日（日）7：00～9：00

伊勢市 五十鈴川上流

中西 章 杉原 豊 参加者11名（会員11名）
アオサギ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カワガラス、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、 計21種

当日は、穏やかな晴れ日で探鳥会日和であったが、一番の目的であるオオルリやキビタキの出現がなかったのが残念であった。ただ、無数の鳥のさえずりと川のせせらぎを聞きながら、木漏れ日の道を散策するのは格別である。特に、イカルのさえずりがよく聞こえたのが印象に残った。

● 奥山権現探鳥会

2010年5月9日（日）10：00～12：00

伊賀市 滝

塗矢尋一 田中豊成 参加者7名（会員3名）
アカゲラ(2)、ヒヨドリ(3)、ミソサザイ(1)、ウグイス(3)、オオルリ(2)、ヒガラ(1)、カケス(2)、ハシブトガラス(4)、ソウシチョウ(1) 計9種

5月初めでも気温が上がらなかったため、渡りが遅れているみたいで鳴き声も少なく、水の音の

方が大きかったくらいで、今までで一番鳥の数も少なかった。

● 志原川及び志原水田周辺探鳥会

2010年5月9日（日）9：00～12：00

南牟婁郡御浜町 志原

中井節二 清水勝海 参加者11名（会員3名）
カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、トビ、キジ、コチドリ、ムナグロ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ 計31種

初めて参加される方が多く、皆さんカワセミを見て大感激でした。また、ゴイサギの成鳥も珍しく見られ、サギ類は5種類も出ました。

旅鳥はムナグロが2羽いただけで、この地域の渡りのピークは過ぎた感じでした。



● 野登山探鳥会

2010年5月16日（日）10：00～13：30

亀山市 野登山

平井正志 石原 宏 参加者11名（会員10名）
カワウ、クマタカ、キジバト、ジュウイチ、ツツドリ、アオゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、クロツグミ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ、 計26種

頂上への車道は最近施錠がしてあるとのこと、亀山の会員を通じて通行の許可をとった。

駐車場への登り口で下車、キビタキやクロツグミの声が聞こえるが、姿はなかなか見えない。様々な落葉樹があり、さながら演習林実習である。シカの害で、下草が見事になくなっている。後に

アンテナのある場所に駐車、展望台まで歩く。展望台で食事、食事がほとんど終わりかけた頃、亀山のIさんが「出たっ」と叫ぶ。熊ならぬクマタカであった。すぐ目の前に大きな姿が見えた。

この山にはやはり豊富な自然が残っている。

● 海蔵川探鳥会

2010年5月18日(火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町

尾畑玲子 高 和義 参加者16名(会員13名)
カイツブリ(3)、カワウ(3)、チュウサギ(1)、コサギ(1)、カルガモ(11)、キジ(1)、キジバト(5)、カワセミ(1)、コゲラ(1)、ヒバリ(1)、ツバメ(11)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(3)、ヒヨドリ(2)、モズ(1)、メジロ(1)、ホオジロ(7)、カワラヒワ(3)、スズメ(5)、ムクドリ(3)、ハシボソガラス(6)、ハシブトガラス(1)、コジュケイ(1) 計23種

まずまずの天候で、ほとんどの参加者がリピーターであったのでのんびりと、それぞれのペースで楽しんでいた。

野鳥の動きはやや活発さを欠いていて、数も少なかつたのにくらべ、カメ類が甲羅干しをしているようすがあちこちで見られた。イシガメをカウントしてくれた参加者によると13匹。ほかに大きなスッポン、ミシシippアカミミガメも見られた。いまやこの川の住人になってしまったヌートリアも観察できたが、常連さんであるバンは別のところで繁殖に精出しているのか不在であった。

キショウブとノイバラが彩りを添えていた。

● 白猪山探鳥会

2010年5月22日(土) 9:00~13:30

松阪市 白猪山

西村四郎 小津みゆき 参加者13名(会員13名)
キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒガラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、サシバ、トビ 計23種

集落の中に駐車して、だんだん田を見ながら歩き出しました。日差しは強く日傘がいるほどでした。登山道に入ると陰になり、すごしやすくなりました。

肝心の鳥のほうはあまり出ず、23種類で、オオルリの囀りには少し遅すぎたのかもしれない。

風力発電の誘致が進められている白猪山ですが、建設されれば景観が悪くなるのは必至ですね。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2010年5月23日(日) 9:00~10:10

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

米倉 静 参加者1名(会員1名)

カワウ(35)、ダイサギ(1)、アオサギ(3)、カルガモ(24)、ホオジロガモ(1)、オオタカ(1)、キジ(11)、コチドリ(1)、ケリ(21)、コアジサシ(1)、キジバト(19)、ヒバリ(15)、ツバメ(6)、セッカ(10)、カワラヒワ(5)、スズメ(31)、ムクドリ(6)、ハシボソガラス(33)、ハシブトガラス(100)、ドバト(19) 計20種

本日雨。

一人参加しようとして来られたが、誰もいないためお帰りになられ、一人探鳥会となる。

ほとんど車内からの鳥見となったが、木曾岬干拓地だけは外に出るも横風強くよく見られなかった。

ケリがオオタカの若鳥を出してくれた。



● 美杉探鳥会

2010年6月5日(土) 16:30~20:30

津市美杉町 三重大学演習林 共催団体/三重大学生物資源学部フィールドサイエンスセンター

坂元伸治 川口久美 参加者10名(会員6名)
カワセミ、アオゲラ、ツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、オオルリ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、ハシブトガラス、コノハズク、ヨタカ 計16種

今年は参加者が少なかったのですが、夜、暗くなる7時半には早くも近くでコノハズク、ヨタカの鳴き声が聞かれました。

天気もよく、夜空は光にじゃまされない満点の星にみつまりました。

● 剣峠探鳥会

2010年6月6日(日) 7:00~11:00

伊勢市 剣峠

林 淳子 高木和夫 参加者 12 名 (会員 12 名)
ホトトギス、アオバズク、カワセミ、アオゲラ、
コゲラ、ヒヨドリ、クロツグミ、ヤブサメ、ウグ
イス、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、エ
ナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、
カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤイ
ロチョウ、アカショウビン、ヤマドリ、コジュケ
イ 計 24 種

夏鳥はほぼ確認できました。

問題点もありました。

- (1) カラスが鳥たちの繁殖区域まで入っ
てきている。
- (2) クロツグミが巣材に人工物(荷作り用のヒ
モ)を使っていた。
- (3) ミルワームが置かれた痕跡があり、そばに
枯れ木まで立ててあった。(撤収)
- (4) タバコの吸いながら、まとまって捨てられ
ていた。(回収)

● 木曾岬干拓地探鳥会

2010 年 6 月 27 日 (日) 9:00~12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者 17 名 (会員 6 名)

カワウ(100)、ダイサギ(2)、チュウサギ(6)、コサ
ギ(2)、アオサギ(5)、カルガモ(30)、チュウヒ(5)、
キジ(9)、コチドリ(3)、ケリ(15)、イソシギ(2)、
コアジサシ(1)、キジバト(6)、ヒバリ(30)、ツバメ
(100)、ハクセキレイ(1)、ヒヨドリ(2)、オオヨシ
キリ(10)、セッカ(30)、シジュウカラ(1)、カワラ
ヒワ(5)、スズメ(50)、ムクドリ(100)、ハシボソガ
ラス(10)、ハシブトガラス(60)、ドバト(7) 計 26
種

来月のチュウヒサミットを前に、木曾岬干拓地
での探鳥会でした。チュウヒは 5 羽見ることがで
き、空中での餌渡しも観察できました。

雨の予報が、曇り時々晴れの天候でした。紫外
線対策をしっかりしなかったため、帰ってから、
腕が赤くなっていました。この時期の鳥見は、し
っかりとした紫外線対策をお薦めします。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2010 年 7 月 25 日 (日) 9:00~11:00

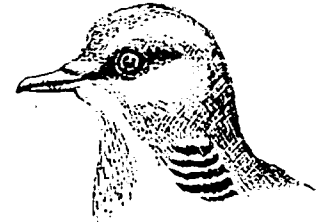
弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者 20 名 (会員 8 名)

カワウ(30)、ダイサギ(6)、チュウサギ(2)、コサギ
(1)、アオサギ(8)、カルガモ(10)、ミサゴ(1)、コ
チドリ(5)、ケリ(10)、クサシギ(3)、イソシギ(2)、
キジバト(7)、ヒバリ(5)、ツバメ(350)、ハクセキ
レイ(3)、セッカ(10)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(11)、
スズメ(30)、ムクドリ(8)、ハシボソガラス(50)、
ハシブトガラス(60)、ドバト(6) 計 23 種

この時期にしてはたくさん参加してもらいま
した。残念ながら、チュウヒも確認できず、鳥の
種類も羽数も
少ない探鳥会
でした。

ただ、猛烈な
暑さの中、小学
生・高校生など
が参加してく
れました。



● ねぐら入りをみる探鳥会

2010 年 8 月 21 日 (日) 17:30~19:00

伊勢市東豊浜町土路 外城田川河口

西村 泉 中西 章 参加者 8 人 (会員 8 人)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コ
サギ、アオサギ、カルガモ、トビ、キアシシギ、
イソシギ、ソリハシシギ、ウミネコ、キジバト、
ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ホオジロ、カ
ワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、
ハシブトガラス、
計 22 種

外城田川中洲の上空にはツバメが飛んでいた
が、視察地ではツバメをあまり見ることはなかつ
た。昨年は水面を覆いつくすように飛んでいた
だけに残念だった。白いサギが 10~30 羽の集団に
なって、四方から次々とねぐらを目指し飛んでい
くのは圧巻だった。シギ類は突堤の上に一列に並
んでいた。

夕方の探鳥会だったので涼しく、のんびり観察
を楽しめた。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2010 年 8 月 22 日 (日) 9:00~12:00

弥富市 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静 参加者 12 名 (会員 5 名)

カイツブリ(7)、カワウ(60)、ゴイサギ(13)、ダイ

サギ(4)、チュウサギ(5)、コサギ(3)、アオサギ(2)、カルガモ(18)、ミサゴ(3)、トビ(4)、チュウヒ(2)、キジ(1)、コチドリ(5)、ケリ(5)、クサシギ(1)、イソシギ(2)、キジバト(6)、カワセミ(1)、ヒバリ(2)、ショウドウツバメ(2)、ツバメ(60)、ハクセキレイ(5)、ヒヨドリ(1)、セッカ(10)、ホオジロ(2)、カワラヒワ(4)、スズメ(40)、ムクドリ(200)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(200)、ドバト(3) 計 31 種

暑さのためか鳥の数が全体に少ないよう。

鍋田干拓地の水田では稲刈りが始まりました。ヒエなどの雑草が稲より高くなった水田が多く見られるのは、耕作に対する熱意が下がっているためようです。農地として利用されているおかげでたくさんの鳥の餌場になっているが、高速道路沿いに増えたトラックヤードになってしまうと、鳥たちも困るでしょう。

● 金剛川・榊田川河口探鳥会

2010年8月22日(日) 9:00~10:30

松阪市 金剛川・榊田川河口

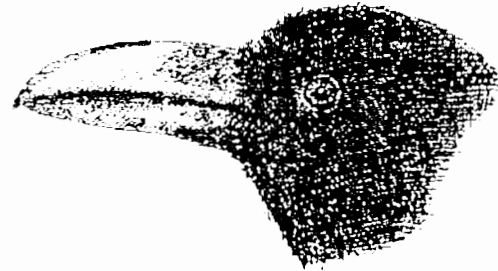
中西 章 中村洋子 参加者14名(会員12名)

カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ミサゴ、トビ、バン、ケリ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、キジバト、ツバメ、セッカ、ホオジロ、スズメ、ハシボソガラス 計 21 種

当日は、大変残暑が厳しく鳥も少ないこともあり、30分ほど早く切り上げた。

渡りのシギはキアシシギ、ソリハシシギが中心で、干潮時でもあり距離が遠く見つらなかった。

探鳥会のあと、有志で曾原大池に行き、ウズラ



シギを見ることができた。



取扱商品

フィールドスコープ
双眼鏡(小型・大型)
天体望遠鏡
カメラ(新品・中古)
その他光学製品各種

取扱メーカー

KOWA・NIKON・FUJINON
MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

中部地区最大の光学製品専門店

TELESCOPE CENTER EYEBELL

テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル)

〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119

定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00

ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス eyebell@diamond.br.oba.cc

しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

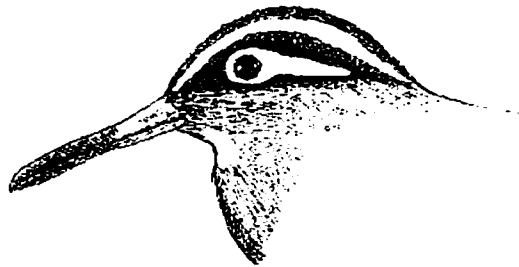
挿絵なども募集します。

締め切りは2010年12月15日です。

原稿は、編集担当 近藤義孝まで E-mail: fwhy4368@mb.infoweb.ne.jp

住所 〒511-0123 桑名市多度町北猪飼 521

64号に企画部の今年度の計画が記載されていませんでした。探鳥会などについては、探鳥会案内を参考にして下さい。



編集後記

今年の猛暑は熱中症で倒れる人がたくさんいたと報道されていました。

野生生物にとっても、大変なようでした。ニホンザルもわが家の水田の中で稲穂を食べながら、涼んでいました。ため池から出たばかりの水につかって、稲を押し倒して、朮になる前の汁を吸っていました。若い個体が多く、今後も増えていくと、ますます人間との軋轢が高まりそうです。えさのない冬をこんなにたくさん個体数で越えることができるのか、憎い反面、心配もしてしまいます。

Y. K.

しろちどり 65号

2010年9月26日発行

題 字: 濱田 稔

表紙絵: 北川和則

カット: 坂元伸治

写 真: 武居 栄

編 集: 近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼521

発行所: 日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野910-49

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印 刷: 東海出版(有)

510-0885 四日市市日永4丁目5-48